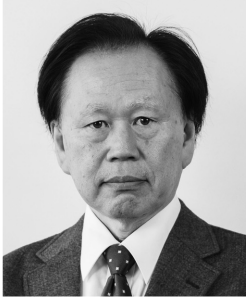


タイトル	寺田吉孝教授の退職挨拶並びに略歴・業績等
著者	
引用	北海学園大学学園論集(189・190): -
発行日	2023-03-27



退職に際して

寺 田 吉 孝

1 着任前，着任の頃

着任の前々年，モスクワに留学していた。留学の前後，履歴書に記載した以外に，大学非常勤講師（中京大学，大阪外国語大学，日本福祉大学，中部大学），予備校講師（河合塾，代ゼミなど），予備校経営，高校非常勤講師（大阪電気通信高校，花園高校），看護専門学校講師など，数多くの職を経験していた。北海学園大学の応募書類の「長所」の欄に「生徒，学生の面倒見が良い」と書いた記憶がある。

1992年4月，北海学園大学に着任した。着任前は神戸に住んでいた。5歳の娘に北海道へ引越すことを告げると，「ホッカイドーって，ハローと言うの」という答えが返ってきた。その娘も36歳になり，2歳の娘の母親である。時がたつのは早いものである。

2 ヴラヂーミル大学との交流

北海学園大学に着任後の初めての授業は，工学部2年生の10名ほどのクラス（当時は，工学部の2年生は，豊平校舎でも授業を受けていた）で行われた。なかなか元気の良い学生達だった。「ロシアへ行きたい」という声が上がった。当時，本学にはロシアに協定校がなかった。留学先を確保するために，夏休みにロシアへ行くことにした。ロシアへ行く際にはヴィザが必要である。ヴィザをとるためにはロシアの国家機関承認の招聘状が必要である。友人のユーリイさんに招聘状を送ってくれるようお願いした。4月中旬のことだった。当時のロシアでは，個人が外国人に招聘状を送るには面倒な手続きが必要だった。招聘状が届いたのは，8月末だった。当時，本学の2学期は9月初旬から始まったので，ロシア行は断念した。

翌1993年の夏休みにロシアを訪問した。ユーリイさん（ユーリイ・アレクサンドロヴィチ・シェルバコフ；ヴラヂーミル大学上級講師）のお宅に泊めていただいた。ユーリイさんは，1990年のソ連留学中に知り合った方である。プーシキン大学の学生寮でたまたまルームメイトになった。当時，ソ連の大学教員は，数年に一度3，4か月の国内研修が認められていた。彼の研修期間中，自宅のあるヴラヂーミル市に何度か連れて行ってもらった。ヴラヂーミル大学を訪問して，留学生準備学部の先生方とも交流する機会があった。

1993年夏休みに、ヴラヂーミル大学国際交流担当副学長のチトフさんを訪問し、次年度からの受け入れを検討してもらおうようお願いした。ソ連邦崩壊直後の混乱期だったので、大学は財源不足だった。受け入れは、意外にも、簡単に認められた。

帰国後、ヴラヂーミル大学への留学希望者を募った。最初、30名近い希望者が集まった。しかし、ご両親の反対もあったのだろう。結局、14名が第1回（1994年度）のヴラヂーミル大学夏期研修への参加者として残った。最初、留学を希望していた工学部の学生たちは研修期間が4年の夏休みとなり、学業等が忙しくなる時期と重なり、参加できなかった。実施が1年遅れてしまったことを申し訳なく思う。

1994年のロシアは、ソ連崩壊後2年ほどしか経っていなかったのに、混乱が続いていた。血を流して倒れている人、物乞いする老人、金品をねだる浮浪児、火を噴くバス、ころがる動物の遺体など、日本ではちょっと見られない光景があった。また、大学の学生寮でも、停電、断水、雨漏り、ゴキブリの異常発生などがあった。学生たちは日本ではなかなか経験しないことだっただろう。しかし、大学の先生方、ユーリイさんの知り合いの方々が学生たちを温かく受け入れてくださった。

帰国後、夏期研修に参加した学生たちがロシア研究愛好会というサークルを組織した。現在も、ロシア研究同好会と改称され、細々と続いている。ヴラヂーミル大学での研修は、コロナ禍の前年の2019年まで、17回（夏14回、春3回）実施されている。

2015年以降の研修の際には、派遣学生たちとともに（ときには、ヴラヂーミル大学の学生達の手伝いもあった）、日本文化フェスティバル（お茶、お花、生け花、日本食、玩具、着物の着付けなどの紹介イベント）を開催した。当日は、地元のテレビ局や新聞社の取材を受けた。

3 ロシア語教育

1998年、所属していた教養部が解体された。共通教育・研究センター、経済学部、経営学部を経て、2008年から人文学部に所属している。教養部解体以降、本学のロシア語教育は大きく変わった。教養部時代は、1年次のロシア語科目が週2回の必修だった。2年次は週2回の自由選択だった。教養部解体後、ロシア語科目は、1年次から4年次までの授業が開講されるようになり、科目数が格段に増加した（ロシア語基礎Ⅰ～Ⅳ、ロシア語会話Ⅰ～Ⅳ、ロシア語文化Ⅰ～Ⅲ、ロシア語文化演習Ⅰ・Ⅱ、ロシア語言語演習Ⅰ・Ⅱ、ロシア語言語文化演習Ⅰ・Ⅱ）。しかし、ロシア語科目は、ほぼすべての学部学科で自由選択となった。必修のころとは異なり、困難なこともあった。

①2年次学生には、週3回のロシア語科目が開講されたが、しかし、時間割上、専門科目と重なることもあったので、実際には、週1回、週2回しか受講できない学生が大半だった。

②必修の頃の週2回用の教科書は使用することができなくなった。基礎・会話・文化で異なる教科書を作成する必要が生まれた。

③週1回受講の学生と週2回・週3回受講の学生が混在することになったので、授業の進め方も再検討が求められた。一つの解決策として、自宅での予習・復習のために、『ロシア語文法ハンドブック』を作成した。これは、授業での板書時間削減にも貢献した。

4 教科書

1998年の新カリキュラム移行後、20冊以上の教科書を作成した。その一部は、下記の業績一覧にある。現在も2冊の教科書を作成中である。1冊は、北海学園大学のロシア語基礎Ⅰ・Ⅱと札幌大学の基盤ロシア語Ⅰ・Ⅱで使用する教科書である（北海学園大学のロシア語基礎科目担当者と札幌大学の基盤ロシア語担当者との共著）。2022年4月から手作りの私家版教科書を試用している。2023年3月に試行本を発行する予定である。もう1冊は、北海学園大学のロシア語会話Ⅰ・Ⅱと札幌大学の基盤ロシア語Ⅰ・Ⅱで使用する教科書である（非常勤講師のヴラーソワ先生とサヴィヌイフ先生との共著）。2023年3月に試行本を発行する予定である。

5 『言語と文化』

教養部解体後、『世界の言語と文化（旧称世界言語文化概説）』が開講された。英語以外の外国語の各語種（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）を日常使っている地域の文化情報全般について概説する科目である。科目としての一体性と資料集としての役割を持たせるための教科書『ドイツ、フランス、中国、ロシア、韓国・朝鮮とその周辺地域の言語と文化』を作成した。記述の充実とデータ更新のため、約5年に一度の改訂を続けている。

6 『ドブロットヴォールスキイのアイヌ語・ロシア語辞典（1875年）』

2022年11月に『ドブロットヴォールスキイのアイヌ語・ロシア語辞典（1875年）』の翻訳本を安田節彦氏との共著として発行した。本書は、著者のM.M. ドブロットヴォールスキイの死後、兄のI.M. ドブロットヴォールスキイ（カザン大学教授）が弟の遺稿を編集して発行したものである。本書の翻訳に際しては、紆余曲折があった。1995年の翻訳開始後、2度の長い中断があり、翻訳本発行までに27年も要してしまった。翻訳本の制作の経過に関しては、『学報』133号やいくつかの新聞（読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞など）の記事となっているので、ここでは割愛する。翻訳本発行までに、26回にわたり『学園論集』で発表させていただいた。この場をお借りして感謝の意を伝えたい。

7 在外研修など

北海学園大学着任後、在外研修を数回実施させていただいた。

- ・1999年9月～12月（3か月）ウクライナ、ハリコフ電子通信大学
L. K. フィラートフ教授のもとでのウクライナ語学の研究

- ・2004年9月～10月, 2005年5～9月(6か月)ロシア, ヴラヂーミル大学
「外国語としてのロシア語」講座におけるロシア語教育法の研究
- ・2004年10月～2005年2月(3か月)ブルガリア, ソフィア大学
ブンジュロヴァ教授のもとでブルガリア語学の研究
- ・2005年2月～5月(3か月)ウクライナ, ハリコフ電子通信大学
L.K. フィラートフ教授, M.A. バシキーロワ准教授のもとでのウクライナ語学, ウクライナ語史, スロボジャンシチナのフォークロアの研究など
- ・2010年4月～9月(6か月)ウクライナ, ハリコフ電子通信大学
L.K. フィラートフ教授, M.A. バシキーロワ准教授, L.E. ポズドニャコーワ准教授のもとでのウクライナ語学, ウクライナ史, ウクライナ語正書法史の研究およびウクライナ語初級教科書の作成など
- ・2016年4月～7月(3か月)ロシア, ヴラヂーミル大学
「外国語としてのロシア語」講座におけるロシア語教育法の研究, 日本文化紹介イベントの開催, 日本文化・日本・北海道・札幌・北海学園大学などを紹介する講演

8 研 究

北海学園大学着任後, 業績一覧にあるように, ロシア語語形成論, ロシア語語彙論, ロシア語地名学, ウクライナ語史などに関する論文を發表している。

現在, 研究を継続していきたいと思っているのは, ウクライナ語とロシア語の語形成の比較研究, D. I. バハリイや M. F. スムツォフのスロボジャンシチナ研究の翻訳紹介である。

9 そ の 他

2014年のソチオリンピック期間中に起こった親米派によるウクライナ・クーデター。クーデターに成功した新政権側と東ウクライナのドンバス地域に立てこもった旧政権側。明治維新の時の函館に似ているようであるが, 国外からの支援(あるいは圧力)があるのが大きく異なる点である。

旧政権側を支援する「ロシア」と「新政権とそれを支援する欧米(+日本)」との戦いが2022年に本格化してしまった。ウクライナの一般の人達からの情報によると, ウクライナの国民の多くはクーデターを望んでいなかったという。現在, そのような多くのウクライナ国民が生命の危機に瀕している。殺人者は間違いなく罰せられるべきである。しかし, 殺人に導いていった者も何らかの罰を受けるべきであると考えます。

ロシア国民の多くは, ウクライナに親戚(親, 兄弟も)が暮らしている。当然ながら, ウクライナ国民の多くは, ロシアに親戚が暮らしている。その人たちの心配, 悲しみは計り知れない。ある意味, ウクライナとロシアは一体である。

ロシア軍の攻撃にさらされているハリコフには多くの知り合いがいるが、皆厳しい生活を送っておられる。国外（オーストリア、フランス、ルクセンブルグなど）に避難した方々、国内の比較的 안전한所（スームイ、ハリコフ州南部など）に避難した方々、ハリコフに残っている方々、消息不明の方々。ハリコフに残っている方々の内の一人、ハリコフ大学元准教授 L. B. ベイさんは、ミサイルや砲弾が飛び交うハリコフ市北部で暮らしておられる。テレビや新聞では知ることができないウクライナ国民の生の声を聞かせていただいている。一日も早い戦争終結を祈るばかりである。

略 歴

寺 田 吉 孝 1954年7月23日生まれ

学歴

1978年3月 大阪外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業

1980年3月 大阪外国語大学大学院外国語学研究科ロシア語学専攻修士課程修了（文学修士）

職歴

1981年4月 大阪織維学園向陽台高等学校教諭（1983年3月まで）

1986年4月 津田学園津田中高等学校教諭（1987年2月まで）

1992年4月 北海学園北海学園大学教養部講師

1996年4月 北海学園北海学園大学教養部助教授

1998年4月 北海学園北海学園大学共通教育・研究センター教育研究部助教授

2001年4月 北海学園北海学園大学経済学部教授

2004年4月 北海学園北海学園大学経営学部教授

2008年4月 北海学園北海学園大学人文学部教授

担当科目

一般教育科目：ロシア語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，ロシア語文化Ⅰ，ロシア語文化演習Ⅰ・Ⅱ，ロシア語言語文化演習Ⅰ，世界の言語と文化

専 門 科 目：基礎演習，人文学演習

大 学 院：比較言語研究特殊講義

学内委員

ロシア協定校専門委員，教務委員，入試委員，キャリア支援委員，学生委員，開発研究所運営委員，在外研修委員など

所属学会等

日本ロシア文学会

JACTFL（日本外国語教育推進機構）会員

NPO 法人札幌青少年国際交流協会幹事

ウクライナ赤十字社ハルキウ州支部機関誌『Червоным по білому』編集委員

学会役員

日本ロシア文学会理事（2015年～2019年）

日本ロシア文学会北海道支部長（2017年～2019年）

客員教授

レスブリッジ大学（2006年9月～12月）

業 績

著書

- 1 『初級者のためのロシア語文法便覧』, 平成 13 年 3 月, 共同文化社
- 2 共著『ドイツ, フランス, 中国, ロシアとその周辺地域の言語と文化』, 平成 16 年 3 月, 共同文化社
- 3 『入門者および初級者のためのロシア語文法ハンドブック』, 平成 16 年 9 月, アーバンプロ出版センター
- 4 『入門者および初級者のためのロシア語文法ハンドブック 改訂版』, 平成 20 年 4 月, アーバンプロ出版センター
- 5 共著『ドイツ, フランス, 中国, ロシア, 韓国・朝鮮とその周辺地域の言語と文化』, 平成 21 年 3 月, 共同文化社
- 6 共著『ドイツ, フランス, 中国, ロシア, 韓国・朝鮮とその周辺地域の言語と文化 改訂版』, 平成 25 年 4 月, 共同文化社
- 7 『入門者および初級者のためのロシア語文法ハンドブック 三訂版』, 平成 24 年 10 月, アーバンプロ出版センター
- 8 『入門者および初級者のためのロシア語文法ハンドブック 四訂版』, 令和 2 年 5 月, アーバンプロ出版センター
- 9 共訳著『ドブロトヴォールスキイのアイヌ語ロシア語辞典』, 令和 4 年 11 月, 共同文化社

翻訳

- 1 「異文化間コミュニケーションにおける民族的特徴について」, 平成 5 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 75 号
- 2 「アイヌ語・ロシア語辞典(1)」, 平成 7 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 84 号
- 3 「アイヌ語・ロシア語辞典(2)」, 平成 7 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 85 号
- 4 「アイヌ語・ロシア語辞典(3)」, 平成 8 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 86・87 号
- 5 「アイヌ語・ロシア語辞典(4)」, 平成 8 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 90 号
- 6 「アイヌ語・ロシア語辞典(5)」, 平成 9 年 4 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 91 号
- 7 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(6)」, 平成 21 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』,

第 142 号

- 8 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(7)」, 平成 22 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 143 号
- 9 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(8)」, 平成 23 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 147 号
- 10 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(9)」, 平成 23 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 148 号
- 11 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(10)」, 平成 23 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 149 号
- 12 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(11)」, 平成 23 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 150 号
- 13 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(12)」, 平成 25 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 155 号
- 14 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(13)」, 平成 25 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 156 号
- 15 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(14)」, 平成 25 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 157 号
- 16 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(15)」, 平成 25 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 158 号
- 17 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(16)」, 平成 26 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 159 号
- 18 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(17)」, 平成 26 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 160 号
- 19 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(18)」, 平成 28 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 167 号
- 20 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(19)」, 平成 28 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 169 号
- 21 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(20)」, 平成 28 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 170 号
- 22 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(21)」, 平成 29 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 171 号
- 23 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(22)」, 平成 29 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 173・174 号
- 24 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(23)」, 平成 30 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』,

第 175 号

- 25 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(24)」, 平成 30 年 7 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 176 号
- 26 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(25)」, 平成 30 年 11 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 177 号
- 27 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(26)」, 平成 31 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 178 号

論文

- 1 「18 世紀末から 19 世紀初に至る期間のロシア標準語における語彙構成の変化」, 昭和 57 年 12 月, 大阪外国語大学修士会『外国語・外国文学研究』, 6 号
- 2 「現代ロシア語の -ние で終わる名詞について」, 昭和 59 年 12 月, 中京大学学術研究会『中京大学教養論叢』, 第 25 卷, 第 3 号
- 3 「現代ロシア語の語形成論について」, 昭和 61 年 3 月, 中京大学学術研究会『中京大学教養論叢』, 第 26 卷, 第 4 号
- 4 「ロシア語における **перфективация** による体のペアの形成について」, 平成元年 3 月, 中京大学学術研究会『中京大学教養論叢』, 第 29 卷, 第 4 号
- 5 「ロシア語における **имперфективация** による体のペアの形成について」, 平成 4 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 73 号
- 6 「ロシア語初級文法書作成のための基礎資料」, 平成 8 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 88 号
- 7 共著「相互理解を妨げるものは何か? — ロシア人とのコミュニケーションにおけるいくつかのルールについて —」, 平成 11 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 101 号
- 8 共著「ウクライナ語の源泉と特徴について」, 平成 12 年 7 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 104 号
- 9 共著「ロシアの昔話の世界」, 平成 13 年 7 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 108 号
- 10 「ロシア語の動詞派生名詞について(1)」, 平成 14 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 111 号
- 11 「ロシア語の基礎語彙について(1)」, 平成 14 年 5 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 112 号
- 12 共著 **Роль языка и культуры в процессе развития и духовного обогащения индивида**, 平成 15 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 116 号

- 13 共著 Роль художественной иллюстрации при изучении русской сказки в иностранной аудитории, 平成 15 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 116 号
- 14 共著 К вопросу преподавания русского языка японским студентам, 平成 17 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 123 号
- 15 共著 Грамматические ошибки в русской речи японских студентов как результат взаимодействия двух языковых систем, 平成 19 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 131 号
- 16 Учебник для чтения с лингвострановедческим словарём, 平成 19 年 9 月, Мир русского слова и русское слово в мире, 第 2 卷, HERON PRESS, Bulgaria
- 17 共著「ロシアの地名について(1) — ヴラヂーミル市のゴドニーミヤの形成過程に関する問題 —」, 平成 20 年 9 月, 北海学園大学開発研究所『開発論集』, 第 82 号
- 18 Преподавание иностранных языков в университетах Японии, 平成 23 年 1 月, Новый Колегіум 2011①, Харківський національний університет радіоелектроніки
- 19 「ロシア語の基礎語彙について(2)」, 平成 23 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 148 号
- 20 共著「ウクライナ語正書法史」, 平成 23 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 149 号, 北海学園大学学術研究会
- 21 「ロシアの地名について(2) — ヴラヂーミル州の河川名の起源 —」, 平成 25 年 3 月, 北海学園大学開発研究所『開発論集』, 第 91 号
- 22 О названиях рек во Владимирской области, 平成 25 年 5 月, Лексикография. Язык. Речь., Сборник статей памяти Анны Липовской, София大学出版局, София

教科書

- 1 共著 КУРС РУССКОГО ЯЗЫКА『ロシア語教程』, SI 図書企画, 平成 7 年 6 月
- 2 РУССКИЙ ЯЗЫК ДЛЯ НАЧИНАЮЩИХ『ロシア語基礎コース』, SI 図書企画, 平成 10 年 4 月
- 3 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ『ロシア語でコミュニケーション』, 共同文化社, 平成 13 年 3 月
- 4 共著 ЧИТАЕМ, ПЕРЕВОДИМ, РАЗГОВАРИВАЕМ И ДУМАЕМ ПО-РУССКИ『ロシア語を読んで, 翻訳して, 話して, そしてロシア語で考えましょう』, SI 図書企画, 平成 13 年 4 月
- 5 РУССКИЙ ЯЗЫК ДЛЯ НАЧИНАЮЩИХ『ロシア語基礎コース 改訂版』, SI 図書企画, 平成 14 年 5 月
- 6 共著 МИР РУССКОЙ СКАЗКИ『ロシア昔話の世界』, 共同文化社, 平成 16 年 3 月

- 7 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ(2) 『ロシア語でコミュニケーション(2)』, 共同文化社, 平成16年4月
- 8 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ(1) 『ロシア語でコミュニケーション(1)』, 共同文化社, 平成16年7月
- 9 РУССКИЙ ЯЗЫК ДЛЯ НАЧИНАЮЩИХ 『ロシア語基礎コース 三訂版』, SI 図書企画, 平成18年4月
- 10 共著 ОБО ВСЁМ ПО-НЕМНОГУ(1) 『ロシア語中級コース』, SI 図書企画, 平成25年3月
- 11 共著 ОБО ВСЁМ ПО-НЕМНОГУ(2) 『ロシア語中級コース』, SI 図書企画, 平成25年3月
- 12 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ –ЭЛЕМЕНТАРНЫЙ УРОВЕНЬ– 『ロシア語でコミュニケーション 初級レベル』, SI 図書企画, 平成25年3月
- 13 РУССКИЙ ЯЗЫК ДЛЯ НАЧИНАЮЩИХ 『ロシア語基礎コース 四訂版』, SI 図書企画, 平成25年4月
- 14 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ 『ロシア語でコミュニケーション 入門レベル(1)』, SI 図書企画, 平成28年4月

口頭発表

- 1 「第2外国語としてのロシア語の教育について」, 平成10年7月, 日本ロシア文学会北海道支部, 北海道大学
- 2 「初歩のロシア語教育について」, 平成10年10月, 日本ロシア文学会全国大会, 埼玉大学
- 3 Как и Что Изучать о России?, 平成15年6月, 日露国際シンポジウム, 北海学園大学
- 4 Об обучении Японских Студентов Русскому и Украинскому Языками, 平成17年5月, ハリコフ州諸大学ロシア語教員連絡会議, ハリコフ電子通信大学
- 5 北海道におけるロシア語教育の現状 (ワークショップ・パネリスト)」, 平成19年7月, 日本ロシア文学会北海道支部, 札幌大学
- 6 Русская лексикология: Тенденции развития — Учебник для чтения с лингвострановедческим словарём —, 平成19年9月, МАПРЯЛ (ロシア語・ロシア文学教師国際協会), 第11回大会, ブルガリア, ヴァルナ市
- 7 Анализ преподавания иностранных языков в вузах Японии и некоторые пути стимулирования японских студентов к изучению русского языка, 平成22年9月, ハリコフ電子通信大学
- 8 「M. M. ドプロトヴォールスキイとその『アイヌ語・ロシア語辞典』」, 平成30年7月, 日本ロシア文学会, 2018年度北海道支部会, 北海道大学

その他

- 1 「ロシアはいいところかもしれない!?!」, 平成9年4月, Z会ペブル選書『留学の達人』所収
- 2 「北海学園大学におけるロシア語教育」, 平成10年9月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第96・97号
- 3 『地球の歩き方〈ロシア〉 2002～2003版』, 平成13年7月, ダイヤモンド社, (ウクライナ語部分の校閲など)

